

キーワード： 田尾スポーツ文庫，芦屋市立図書館

1. はじめに

スポーツに関する資料を豊富に揃えていることで知られる兵庫県芦屋市立図書館には、一般図書のほかに、「田尾スポーツ文庫」と「松本幸雄バスケットボール文庫」があり、多くの研究者やスポーツ愛好家などが利用してきた。

体育史・スポーツ史での研究史上、スポーツの資料収集家が学術的に評価されたことはほとんどなかった。しかし、これからの体育史・スポーツ史の研究では、このような人物の評価を考えて行かなければならないと思っている。そこで、本研究ではスポーツの資料収集家である田尾栄一の功績を明らかにし、現在残っている彼が収集した資料の行方について考察する。

2. 田尾栄一の資料収集

田尾栄一は大阪市で生まれ、同志社大学に進学し、ラグビー競技を経験した。仕事はホテルの経営をしていた。田尾栄一が夢中になってスポーツの資料を収集したことを彼の次女（宮坂忠子）が野球体育博物館の機関誌「Newsletter Vol.21/No.1」で回顧している。

彼の資料収集は、昭和 6 年頃からはじまったといわれている。そして、彼が収集したものは、約 15,000 点に及び、例えば、神戸新聞では「明治四十四年にオーストリアから新潟県の第五十八連隊（高田）に派遣され、日本に初めてスキーを紹介したレルヒ少佐の名刺など貴重品も多い」と記されていた。この神戸新聞で紹介されたレルヒ少佐の名刺は、元日本大学文理学部教授で体育史・スポーツ史の研究者である木下秀明が田尾栄一に渡したものであった。

木下秀明は昭和 30 年頃に知人の紹介で田尾栄一と知り合っている。彼は「田尾スポーツ文庫」の他、田尾栄一に日本体育大学の図書資料の整理にかかわった時（昭和 33 年）やオリンピック・東京大会の時（昭和 39 年）にもお世話になったという。そして、木下秀明は田尾栄一に資料を「集める極意も伺った」と述べている。そこで、資料を「集める極意」について木下秀明に尋ねたところ、田尾栄一は古本屋の方々に探している資料を伝え、探してきて

くれた資料が違っていても、持っている資料と重なっていても、その資料を必ず購入していたという。それが、次へと繋がり、重複した資料は研究者やほしい人に譲り、資料収集の輪を広げて行った。このように、田尾栄一は資料収集を通して研究者らとかかわりを持って行ったこともわかった。

3. 芦屋市立図書館への寄贈

終戦後、田尾栄一は戦災の難を逃れた資料の安全に保管してくれる場所として芦屋市立図書館に寄贈することを決めた。

田尾栄一による図書寄贈の謝礼として芦屋市は報償金 50 万円を支払っている。この図書の購入は、昭和 25 年 3 月 8 日の芦屋市教育委員会の議題に「体育図書購入について」とあがっている。その記録には、「約四〇〇〇冊の体育図書その他写真オリンピックのプログラム書架の購入を誓約した」と記されている。

昭和 25 年に芦屋市教育委員会に寄贈された図書は、冊数が多かったためか、一般者が閲覧出来るまでに至るのは、約 5 年後の昭和 30 年 4 月 17 日からである。昭和 25 年に田尾栄一の資料が芦屋市にきてからは、その資料を芦屋市役所は目の前に位置（北側）している芦屋市立精道小学校の講堂地下室倉庫の一部に保管していた。このことについて昭和 29 年 3 月 12 日からはじまった芦屋市役所の定例会議における 3 月 30 日の会議の中で、「田尾スポーツ図書の件につきましては今回監査の当時、精道小学校講堂地下室倉庫の一部に未整理のまま死蔵されていました」と報告している。

約 4 年間、未整理のまま芦屋市立精道小学校の講堂地下室倉庫に保管されていた資料は、昭和 29 年に整理しはじめ、同年 3 月 29 日には芦屋市教育委員会から芦屋市立図書館に資料の引継ぎをしている。

また、昭和 29 年の「第三回（定例）芦屋市議会会議録（三月三十日）」によれば、田尾栄一が芦屋市に寄贈した図書の冊数は、4,025 冊であると述べている。この約 4,000 冊もの数は、昭和 25 年の「教育委員会記録」（芦屋市）に記されている冊数とほとんど同じであった。しかし、昭和 30 年に一般

の閲覧を開始した時には、1,148冊（うち和書 812冊、洋書 336冊）となっていて約 3,000冊の姿は消えている。そして、上記した通り、「教育委員会記録」（芦屋市、昭和 25 年）によれば、寄贈当初は約 4,000冊の図書のほか、写真やオリンピックのプログラムがあったようだが、それらは見当たらない。

4. 秩父宮記念スポーツ博物館・図書館

田尾栄一の資料は、芦屋市立図書館のほか、秩父宮記念スポーツ博物館・図書館（以下、「秩父宮スポーツ図書館」と省略）と野球体育博物館にも保管されている。秩父宮スポーツ図書館の開設実行委員として田尾栄一はかかわっていた。秩父宮スポーツ図書館の開館は昭和 34 年 4 月であり、博物館の開館から 3 カ月遅れてのスタートとなった。これは、秩父宮殿下の 7 周忌に合わせて博物館の開館を 1 月にしたことと、図書館の資料整理が間に合わなかったことが関係していた。博物館の開館直前に「国立競技場」第 2 号では、「図書館はスポーツ図書館としての性格をいかにするために、田尾栄一氏の協力を得て同氏所蔵の図書四〇〇余点を収納することになった」と記されている。

秩父宮スポーツ図書館の「図書原簿（寄贈）」によると、田尾栄一は図書館の開館前の昭和 33 年 12 月と昭和 34 年 1 月から寄贈していたことがわかる。そして、田尾栄一が書籍を寄贈した三か所の中で、秩父宮スポーツ図書館だけが、寄贈と寄託したものにわかれている。田尾栄一が秩父宮スポーツ図書館に寄贈・寄託した資料を「図書蔵書（寄贈）」と「図書蔵書（寄託）」で確認したところ、寄贈は 167 冊、寄託は 60 冊で計 227 冊となる。ただし、この 227 冊という数は、上記した「国立競技場」第 2 号（昭和 34 年）で記されている数の約半数である。

5. 野球体育博物館

野球体育博物館には、田尾栄一が寄贈した書籍、ポスター、クラブ、パンフレット、優勝額が約 40 点展示、所蔵されている。

野球体育博物館では田尾栄一の講演に同行したことがある野球体育博物館の司書の小川晶子に当時の話を聴くことが出来た。その講演は、淡路島で田尾栄一が経営するオリンピック・インというホテルで昭和 56 年 2 月 17 日に行われた。野球体育博物館に寄贈した『魔球術』と早稲田大学が渡米した時のポスターを講演で使用したいので、持ってきてほしいという田尾栄一からの要望があり、小川晶子、館長、総務の 3 名で資料を持って淡路島に行った

という。講演会は 17 日の午後に 2 時間くらい行われ、聴衆は高齢の方が多かったことやオリンピック・インでは、金屏風などが飾ってあったことを小川晶子は記憶していた。この金屏風は、昭和 39 年の読売新聞で田尾栄一が紹介しているものであった。

このように、田尾栄一は自らが集めた資料を用いて講演を行っていた。彼はスポーツの資料収集だけに留まらず、資料から知識を深めて行ったと考えられる。そうした成果を彼は新聞でも掲載していた。田尾栄一は日本体育学会体育史専門分科会（以下、「体育史専門分科会」と省略）でも発表を行っている。彼の発表は、「スポーツ史資料の収集について」というテーマで行われた。この発表は、昭和 53 年 4 月 22 日、23 日の体育史専門分科会の春季定例研究会で行われた。体育史専門分科会の「会報（57 号）」によると、田尾栄一の発表時間は、4 月 22 日の午後 6 時から 9 時まで計三時間と記されている。この春季定例研究会で世話人を務めた神戸商船大学（現神戸大学）教授の岸井守一が田尾栄一と関係していたことから、淡路島のオリンピック・インで、研究会を開き、田尾栄一が発表することになった。

田尾栄一は昭和 62 年 12 月 22 日の正午に逝去している（享年 82）。その二年前の昭和 60 年まで、彼はスポーツ資料の寄贈を続けていた。

6. おわりに

田尾栄一の資料は芦屋市立図書館の「田尾スポーツ文庫」のほか、秩父宮スポーツ図書館と野球体育博物館に所蔵されていることがわかった。しかし、彼が生涯で収集した資料は神戸新聞によると約 15,000 点といわれている中で、確認出来たのは約 1,400 点に過ぎない。

彼が所持していたと思われる資料、約 15,000 点から考えると約 1,400 点という数は少ないように感じるが、これらの資料は、現在も研究者やスポーツ愛好家など、多くの人たちに利用されていることは彼の成果といえる。さらに、田尾栄一は新聞で自らの資料を紹介し、講演・発表を行い、学会でも取り上げられたことは、彼の成果は一定の評価を得ていたといえる。

【主な資料】

- 1) 芦屋市教育委員会「教育委員会記録」1950.3.8
- 2) 芦屋市議会「第三回（定例）芦屋市議会会議録（三月三十日）」1954.3